

大阪フロイデニュース

Freude

vol. 19-21 2026. 4. 1 wed

4/8(水) 18:30 東梅田教会
4/15(水) 18:30 天王寺区民センター
4/22(水) 18:30 東梅田教会
4/29(水) 13:15 港近隣センター

4月の練習は、前半のヤマ場です！

女声はなんと！先週で譜読みが済みました\(\◎◎)/！男声も残すところあとわずか！
で、4月の練習スケジュールを見てみると、内容的にこんな感じ。
(あくまで、団長の勝手な予想なので、外れたらゴメン)

4/1 (水)	東梅田教会	分かれて譜読み。男声は譜読み終わるか！？ 女声は、一周目は済んだものの、怪しいところの見直し。
4/8 (水)	小田北 生涯学習プラザ	分かれて譜読み。男声はここで譜読みコンプリート！か？ 女声は、さらに怪しいところ見直し。か？
4/15 (水)	天王寺区民 センター	合わせて練習！ピアニストに来ていただいて、全曲歌うような 気がする～。モーツァルトもお忘れなく！
4/22 (水)	東梅田教会	分かれて練習「2周目」 ここから「男声：亀井先生」「女声：由也先生」かも。 「譜読みのやりなおし」状態にならないように！譜読みではなく、 パートの音作り、音楽にしていく作業です。練習自体がもっ たいないことにならないように、心して取り組もう！
4/29 祝・水	港近隣センター	昼間の練習です！13:15～16:30まで、みっちり！ 分かれて練習ですよ～。 練習のあとは、懇親会だ！みんな参加しよう！
5/6 祝・水		練習休み！いままでのところ、忘れたらアカンよ(◎_◎;))
5/13(水)	東梅田教会	さあ、練習中盤へ！分かれて練習です！

4月で音楽をアタマに入れておけば、5月からの練習で、グングン音楽らしく！？なっていくはず！
新年度の始まりの時期、みなさん、いろいろ忙しいと思いますが、なんとか調整して、練習を休まないようにし
てくださいね～。もちろん、体調管理万全で！

Fine Laus Deo (終わりに、神に賛美を)

ハルモニー・ミサの楽譜の最後には、ハイドンの直筆で「Fine Laus Deo (終わりに 賛美を 神に) と描かれています。(私たちのボーカルスコアでは記載は省略されています。ぜひ、描き込みましょう) これは、昨年歌ったハイリッヒミサにも描かれていました。

実はこの「Fine Laus Deo」が描かれている曲は、ほかにもいろいろあるそうです。例えば、モーツァルトは交響曲第 10 番で。ハイドンも交響曲 49 番「受難」でも描いていたそうなの。。。。それでも、全部が全部、描かれていたわけではないので、描くからには何か、気持ちがあったんでしょう。

折りしも、ハイドンが後期六大ミサを作曲した当時は、オーストリアは戦争の真っ最中。ハイドンのパトロンであるエステルハージ家も、戦争の影響で、楽団員を解雇せざるを得ないときがあったり、少し世間が落ち着いて、また雇いなおしたり、などなど、やりくりも大変だったよう。ハイドンは「パパ・ハイドン」と呼ばれるほど、楽団員から慕われていましたが、なんとって 64 歳～70 歳 (当時のこの年齢って、すごいですよね) の取り組み、もう定年を迎えてもいいときに、多忙を極め、楽団員の生活や家族のことまで心配していたそうなので、心労もアレコレあったよね、さまざまに心が揺れ動きながら、の作曲活動だったのではないのでしょうか。

下記は、六大ミサのオーケストラ編成一覧 (楽譜に指定されたもの)。曲によって変わっていたこと、戦時下のエステルハージ家 & 楽団 & ハイドンの心情などなど、が見え隠れしますねえ～。

作曲年	曲名	フルート	オーボエ	クラリネット	ファゴット	ホルン	トランペット	ティンパニ	弦楽合奏	オルガン	大阪フロイデでの演奏年 2020年～2022年は コロナ禍。23年はモツレク
1796	ハイリッヒミサ		2	2	2	(2)	2	1	全	1	2025.10.22
1796	パウケン・ミサ	(1)	2	2	2	2	2	1	全	1	2024.10.17
1798	ネルソン・ミサ						3	1	全	1	2020.10.28 コロナ
1799	テレジア・ミサ			2	1		2	1	全	1	2022. 2.16 コロナ
1801	天地創造ミサ		2	2	2	2	2	1	全	1	2022.10.20 コロナ
1802	ハルモニー・ミサ	1	2	2	2	2	2	1	全	1	2026.10.22

※楽器の () は、楽譜に楽器名が描かれているが「随意に」の注釈付き。なくてもよい。

※弦楽合奏の「全」は、第 1 ヴァイオリン、第 2 ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、の全種。

※ネルソン・ミサは、1803 年に楽器が追加された第 2 版が出版されています。

そこでは、ハルモニー・ミサ同様の管楽器が追加記載されています。

※当然ながら、ハイドン時代の楽器と現代では異なります。

例えばトランペットに置き換えているのは、ハイドンの楽譜では「クラリーノ」です。トランペットに近いですが、実際には異なるため、このあたりが解釈されて、微妙に楽器編成が異なる演奏も行われてます。